

A. E. ハウスマン

1 アテュス

「リュディアの民よ ヘルムス川の^{あるじ}主らよ
砂金をふるい分ける者らよ
未だ 槍が飛び交い
狩人らが家路に向かっているや」

「王よ タベの^{とぼり}帳を降ろす星が 5
ツモラス山から羊を麓に呼び戻す
鳩も天空から家路につき
王子もサルディスの町に戻られます」

狩りの獲物をどっさり積んで
一行はミュシア街道を進む 10
乙女座の守護星ヘルメースが
クロイソス王の元に息子アテュスを連れ戻す

「リュディアの民よ 川や泉の底に
砂金の鉱脈を見つける者らよ
リュディアの民よ オリュンポス山を下ってくる 15
アテュスの姿は^{しか}確と見えるや」

「王よ 異邦のフリギア人が見えます
狩人装束に身を固めた護衛たち
あなたのご子息を危険からお護りする者たちも
その者たちは見えますが ご子息のお姿はいずこにも」 20

「リュディアの民よ こちらに向かう一隊の者らが
日暮れ時で 老いた眼にはしかと見えぬのだが
^{なにゆえ}何故その者らは槍を引きずっておる
砂金を洗う者らよ ^{なにゆえ}何故じゃ

「我も歳をとったものよ 日が暮れる 25
道に迷う夜がやって来る
ミュシア街道の入口をゆっくりと進む者
民よ リュディアの民よ あれはいったい何者ぞ」

獵^{いぬ}犬^ぬどもが主^{あるじ}の後ろで鼻を鳴らし
脇を進む狩人たちは黙して語らず
胸に突き刺さった猪狩りの槍が輝く
父王の自慢の息子が家路に向かう

30

(山中光義訳)